

2021年10月

# 2021年度 四万十町地域イノベーター養成講座 第3回 ビジュアルレポート

高知大学 地域協働学部  
コミュニティデザイン研究室

## 実施概要

- 日 時：令和3年10月2日（土） 13時00分～18時00分
- 会 場：地域交流センターたのの 第1・2会議室
- 主 催：四万十町・高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室
- 実施内容：「地域のために何かしたい」「起業をしてみたいけど、まだ勇気がない」「何をして良いのかわからない」そういった方々を対象に全6回の地域イノベーター養成講座を開催。  
一人ひとりが自分事として、地域課題解決や活性化を目指す「チャレンジする人材」の学びの場。

### 【タイムライン】

Time	Theme	Contents
13:00-13:20	チェックイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今の気持ち・前回からのアクション</li> </ul>
13:20-14:20	LSPワーク / オンラインワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>• レゴ®シリアスプレイ®を活用した関係形成ワーク</li> <li>• オンライン参加者は岸川氏からSBPについて説明を受ける</li> </ul>
14:30-15:30	キーノートスピーチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 岸川政之 氏 (一般社団法人 未来の大人応援プロジェクト 代表理事)</li> </ul>
15:30-17:15	フューチャーコラージュ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 雑誌の紙面を切り貼りすることで自分の未来の姿を表現する</li> </ul>
17:15-17:30	チェックアウト	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 次回までのスケジュール・課題確認</li> </ul>

# (参考：フライヤー)

令和3年度  
第5期生募集

## 回覧



# 地域イノベーター 養成講座

四万十町では、何か新しいことを始めてみたい、  
地域のために何かしてみたい、という方などを対象に  
地域イノベーター養成講座(全6回の連続講座)を  
開講しています。アイデア実現のための仲間づくりと学びの場を  
提供するだけでなく、やりたいことがまだない方やいろいろな  
学びを得たい方にもおすすめです。お子様連れの方でも参加いただけます。  
年齢や所属は問いませんので、お気軽にご応募ください。

主催：四万十町  
協办：高知大学地域協働学部  
コミュニティデザイン研究室





## スケジュール・内容 ※いずれも13:00-18:00で開講いたします

**7/31(土)**

自分の想いと価値観を  
掘り起こす

**大久保 伸隆 氏**  
(株式会社ナライン 代表取締役)

1993年生まれ。千葉県出身。大学卒業後、不動産会社を経て、2007年エンベローカンパニー入社。店長などの機軸から事業部長を経て、2012年取締役営業本部長に就任。東証マザーズ上場。東証一部への市場変更を経験し、2014年に副社長に就任。フルタイムをやる前に1年半は独自の取り組み「フロンティア」を設立し、代表取締役を務める。現在は「食育啓蒙」「食育地産食直」(東京・港区新橋)、「食(utsumi)」「千葉・佐倉ニューカワ」などを経営。独自の経営モデルは「ダイバ」の旗印で知られる。飲食店の経営を通じて、まちづくりのプロデュースに繋がる。著書に「ライトを大事にする飲食店は必ず繁盛する」(2018年)。

**8/21(土)**

自分ゴトで取り組める  
問題を見つける

**丑田 俊輔 氏**  
(バクスタ株式会社 代表取締役)

公共施設をまちづくり拠点として再生する「まちだプラットフォームスクエア」、日本IBMを経て、2010年にバクスタを創業。国内外を舞台にした様々な教育事業を展開。2014年、秋田県五城目町に移住。同町発起者を首脳「ドチャペン」、市民会を舞台に地域を繋ぐ「シェアビレッジ」、週休無給を推進する「ただのまちが場」、住居参加型小学校建設「建てる学校」支援等を推進。2021年、共創型コミュニティプラットフォーム「Share Village」を公開。

**10/2(土)**

自分と組んだ  
プロジェクトを描く

**岸川 政之 氏**  
(一般社団法人 未来の人間性プロジェクト 代表理事)

1957年8月15日生まれ。大学卒業後、1982年多摩町入庁。税務課、教育委員会、総務課、企画課、農林漁工課を経て、2011年4月「まちの宝創造特命監」に就任。高校生レストラン「まごの店」やその発展が運営する惣菜とお弁当の店(特)相可フーズネット「せんばいの店」など、コミュニティビジネスの手法を取り入れた地域おこしに取り組む。これらの取り組みは、国土交通省ふるさとづくり農大賞、総務大臣優秀賞など多くの賞を表彰し、2011年5月からは高校生レストラン「まご」をテレビドラマでもちめ話題を呼んでいる。

**11/6(土)**

未来の姿を  
想像する

**小笠原 舞 氏**  
(株式会社地産/消費地産共同体 代表理事)

大学では福祉を学び、社会人経験を経て、保育士となる。こどもたちから学びを得ることが、「Well-being」(確かな心(生き生き)社会)につながると思い、2012年子育てコミュニティ基地をつくり、全国に仲間を作って支店を増やし続けている。2015年に「共同会社」ともいえる探求社を設立。2020年には、自主事業「やこ保育園」をオンライン化し、全国の親子を対象に新しい子育て支援の形を作っている。著書「いい親より大切なこと〜こどものために」は「なぐさ」の「いい親にあって〜」プライベートでは、神戸市長田区の下町情緒と多様性あるふれあふ人々のつながりの中で、夫と子ども(3歳)と樂天の暮らしを楽しんでいる。

**12/4(土)**

小さな一歩を  
踏み出してみる

**寺井 彩 氏**  
(株式会社イグジティブ・プラットフォーム)

大学で文化人類学、紛争解決について学んだ後、英大大学院にて国際関係学修士を取得。戦後を渡った社会開発・エンパワメント・啓蒙手法を学ぶ。2017年より、エンターテインメントとしての質の高い社会的な意義の両面を併せ持つ映像を手掛ける制作会社に入社。広告・ドキュメンタリー・ショートフィルムなど、様々な映像制作に携わる。現在、課題当事者とともに映像をつくる共創型プログラムを開発中。誰かの「美しい瞬間」を発見とらえるのが好きです。

**1/22(土)**

学んだことや  
取り組みを発表

**小澤 いぶき 氏**  
(NPO法人 P.ECS代表)

精神科医を経て、児童精神科医として複数の病院で勤務。トラウマケア、虐待被害、発達障害児を専門として臨床に携わり、多数の自治体のアドバイザーを務める。さいたま市の子育てインクルーシブモデルを上げ、プログラム開発に参画。2016年、米石川のFish Family Foundationのプログラムの4名に推薦されリーダーシップ研修を修了。2017年3月、世界各国のリーダーが集まるザルツブルグカンファレンスに招待。子どものウェルビーイング達成に向けたザルツブルグプラットフォーム作成に参画。

## 受講生の声

**井口 佐奈恵さん(3期)**

先週のワークショップを聞いてみたいという私の長年の夢でした。この講座は自分自身の課題をみながら学びます。それも大変ではなく、生い立ちをすべて自分の言葉に書き換えてみることで、自分の課題を整理し、言葉を通して人に伝えて認めてもらうことができている。そんな体験をしてみようかな?

**西村 咲希さん(4期)**

私が何故か自分自身とやりやういとは何かと悩んでいた。この講座を受講しました。最初は「地域」を軸に考えていたワークショップですが、受講するうちに、「自分」を軸にやういことを見つけることが出来ました。今までにない学びを得ることができた。生い立ちをすべて自分の言葉に書き換えてみることで、自分の課題を整理し、言葉を通して人に伝えて認めてもらうことができている。そんな体験をしてみようかな?

**窪 博正さん(2期)**

1年間ノベーター講座に参加しました。思いがけない参加者のやりやういこと意外な面白さ、自分の町のことや夢のやりやういこと、自分の考えや夢を自由に表現することができた。思いがけない出会いがあり、自分自身も成長することができた。講師の経験や知識やスキルから学ぶことができた。講師の経験や知識やスキルから学ぶことができた。

## 講座の流れ

対話

講座

自分のこれまでの人生を振り返りながら、疑問や、やりたいこと、関心など本音の自分を語り合います。

実践

チャレンジ

自分と組んだプロジェクトを描く。話を聞いただけでなく、実際にやってみます。

伴走

オンラインメンタリング

アクションを通して感じたことを仲間や学生メンターと対話しながら、振り返ります。

← 講座のたびにくりかえし実施して進めていきます

最終報告


- 募集人員 10名程度を予定
- 受講料 ① 町内に住所がある方…5,000円 ② 町外に住所がある方…10,000円
- 講師 高知大学 地域協働学部 須藤 順 先生
- 応募資格 右下のQRコードの応募フォームからご応募していただくか、エントリーシートに必要事項を記入して、下記のいずれかの方法でご応募ください。
- ① 持参する場合、人材育成推進センター、もしくは各地域振興局に7月26日(月)までに提出してください。
- ② 郵送、メール、もしくはFAXで人材育成推進センターまでお送りください。なお、エントリーシートは、四万十町ホームページからもダウンロードできます。
- 受講資格 四万十町で活動する意思のある方、並びに、四万十町の資源を活用して活動する意思のある方、原則として、全講座に参加できる方を対象としています。
- 受講料納付方法 受講料は、第1回目の講座の時にご持参ください。
- その他 講座内容や開催場所(四万十町内)等の詳細については、受講生の方に通知いたします。

事務局

四万十町役場 人材育成推進センター  
(担当: 横山 光一・吉村 愛)

T: 786-8501  
F: 786-8501  
E-mail: 1030606@townshimanto.jp  
TEL: 0980-22-3163  
FAX: 0980-22-3345

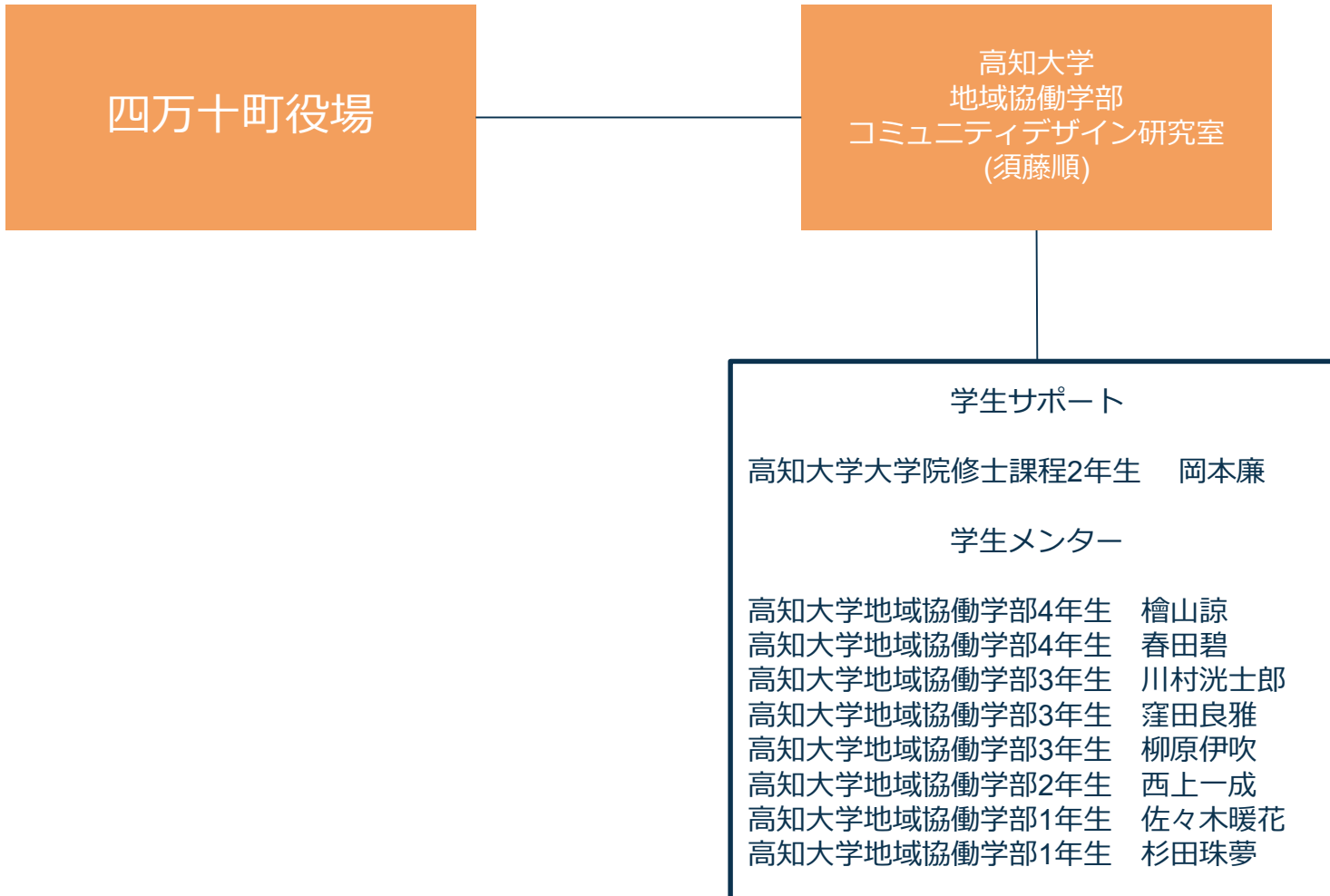
申し込み  
フォーム



キトリ

令和3年度 地域イノベーター養成講座エントリーシート			
氏名	フリガナ		
職業	電話	メールアドレス	
年齢	性別	住所	
あなたが興味点で思っているプロジェクトや、4月11日までやってみたいことがあればご記入ください。			

## 実施体制



**1人ひとりが自分事として、  
地域課題解決や活性化を目指す  
「チャレンジする人材」の学びの場**

## 目指すべきゴール

---

1

一人ひとりが自分の経験の中から、自分自身のミッション（使命）を見つけ出す

2

“ジブンゴト”で取り組むことができるプロジェクトを自分自身で生み出す

3

ジブンゴトのプロジェクト（マイプロジェクト）に取り組む仲間同士がともに切磋琢磨しながらも支え合う関係を創る

# 地域イノベーター養成講座の進め方



# 進め方（概略）

---



## 本当の自分を語り合う

自分のこれまでの人生を振り返りながら、好きなものや関心があること、疑問に思っていること、やってみたいことを語り合う。

## アクションしてみる

自分と紐づいたプロジェクトを小さくやってみる。先輩を訪ねたり、調べてみたり、誰かに話してみたり、自分ができることに取り組んでみる。

## 振り返る

アクションしてみて気づいたこと、感じたこと、思ったことを仲間やメンターと対話をしながら振り返り、自分の本当の気持ちに向き合う。



2つのシートを使って対話とアクションを繰り返していきます！

マイプロ Me編	名前 (ニックネーム、読んでほしい名前、その由来)	作成日: 場所:
似顔絵・写真	みんなが知らない自己紹介	
自分ストーリー 昔 (~小学校)	人生グラフ: 横軸は年で、縦軸はイキイキ度(幸せ度)。人生で輝いていた時、沈んでいた時を見る化しよう!	
(~中学・高校)		
(~専門・大学)		
(~現在)	みんなが知らない自慢・一発芸・得意技	
今		

マイプロジェクトの源泉へ

## ← me編シート

- ・自分のライフストーリーや好きだったこと、楽しかったこと、つらかったことなど
- ・自分の人生をグラフにしてみる
- ・普段見せない自己紹介

PROJECT編
わたしのプロジェクト(マイプロジェクト)を一言で!
■実践したいプロジェクトの概要

## project編シート→

- ・自分と紐づいたプロジェクトを書き出す
- ・それは誰にどんな価値を生み出すのか

■「やってみたい!」と思った、理由や背景、原体験	■「誰」にどんな価値を生み出しますか?
--------------------------	---------------------

# 本講座のゴール

idea



- 1** **自分が情熱を傾けられるモノ・コトを自分の経験の中から見つけ出す**
- 2** **「アクションしながら学びを得る」ことを意識し、徹底して、行動と対話を繰り返す**
- 3** **自分らしいと思えるプロジェクトを描き、自然体で向き合える仲間づくりを行う**

## 場のルール

Growth

Vision

Resea

Business

Success

Marketing

Sup

Cre

## 場のルール

---

- 1 安心・安全の場をみんなで創ろう
- 2 ありのままの自分を素直に出そう
- 3 仲間・プロジェクトを評価しない
- 4 プロジェクトは変わってOK
- 5 お互いに貢献し合う

# 講座の様子



# チェックイン

コロナウイルスの感染状況が落ち着いたことにより、今回は対面での受講をメインに行った。学生メンターの何名かはオンライン参加であったが、前回より和気あいあいとした明るい雰囲気で開催できた。高知大学須藤より、本講座の説明が行われたのち、受講者、学生メンターが今の気持ちと前回以降のアクションについて発表を行った。久しぶりの対面での発表に緊張しながらも、久しぶりに対面で会えた嬉しさを噛みしめながら発表を進めていった。アクションについても前向きな姿勢や、進展が見られた。



講座について説明する様子



チェックインの様子



受講生の様子



チェックインの様子（オンライン）



話を聞く受講生



チェックインの様子(会場)

# レゴ®シリアスプレイ®ワーク/オンラインワーク

レゴ®シリアスプレイ®ワークは、会場で参加した受講生に実施した。自分の手を信じてとにかく作ることに苦戦している声もあったが、それぞれの作品作りに没頭する様子が見て取れた。ワークの中では、「自分のプロジェクトとはどのようなものか」、各自行っているマイプロを表現するため限られた時間の中で手を動かした。受講生はプロジェクトにおいて大切にしているポイント、プロジェクトにおける感情の動きを見出した。

オンライン参加の学生メンターは、岸川氏よりSBPの活動についての説明を受けたのち、レゴ®シリアスプレイ®ワークを見学した。



作品を作成する様子



自分の作品を説明している様子



作品を作成する様子



自分の作品を説明している様子



完成した作品



完成した作品



# キーノートスピーチ

キーノートスピーチでは、岸川政之氏より「自分と紐づいたプロジェクトを描く」というテーマで講義が行われた。

## 岸川政之氏（一般社団法人 未来の大人応援プロジェクト 代表理事）

1957年8月15日生まれ。大学卒業後、1982年多気町入庁。税務課、教育委員会、総務課、企画課、農林商工禍などを経て、2011年4月「まちの宝創造特命監」に就任。高校生レストラン「まごの店」やその先輩が運営する総菜とお弁当の店（株）相可フードネット「せんばいの店」など、コミュニティビジネスの手法を取り入れた地域おこしに取り組む。これらの取り組みは、国土交通省ふるさと手づくり大賞、総務大臣優秀賞など多くの賞を受賞し、2011年5月からは「高校生レストラン」と題しテレビドラマ化もされ話題を呼んでいる。

### ◆ 課題解決型の学習：PBL（Project/Problem・Base・Learning）

岸川氏は大学で「公共政策論」の講義を行っている。この講義ではフリートークをメインとして、課題解決型の学習を行っている。講義は、課題について話し合い、議論の結果を公表し、一連の作業を評価するという順序で行われている。スーパーフリー、とにかく自由にといいことで、学生が寝ても構わない、講師は学生が手を挙げるまで当てることがない。講義をスーパーフリーにすることで、この講義を自ら選択して来ている学生が制限されることなく自由に活動し、講師ではなく学生たちが授業を作り上げることを目標としている。そして、この講義を通して少しでも、何かを得て感じてもらえることを大切に講義を行っている。

### ◆ 夢は何歳になっても持つことができる

自分が勤めている行政にコンプレックスがあり、辞めたくて他の仕事を探した時期もあった。それでも真面目に仕事をこなしてはいたが、プライドを持って仕事ができないことに辛さを感じていた。ギネスに挑戦するなど仕事以外に新たな世界を作り、たくさんの仲間を増やしてコンプレックスの解消を図った。行政の仕事にコンプレックスを持っていた経験から役場時代にはリーダーに就いたことはなかった。しかし、40代になって初めて夢を持ち、今でも変わらず夢を持ち続けているという。その経験から何歳になっても夢を持つことを諦めていない。

### ◆ 高校生レストラン：実行する壁を破る

当時は敷居が高い高校に出向き、イベント用の食品を作るよう頼んでみたところ、高校生の熱意ある説明、サービスから彼らの本当の底力に気付かされる。「この子たちに活動の場を提供できないか」そう考えた岸川氏は行動へ移す。様々な方向からの許可を得る、高校が県の管理下であること、出資してくれる先を探すなど課題は山積みであった。町役場へ交渉では、夏休みの期間役場の食堂で生徒たちに働いてもらい、熱意と技量を知ってもらうことから始めた。その後大きな壁となったのが県から許可をもらうことであった。しかし、「生徒たちの期待の声をここで潰すわけにはいかない」と、リスクと大きな責任を抱えながら高校生レストランをスタートさせる。この活動は開始とともにさまざまな方向より反響を受け、後に県の認可、そして文部科学省の認可を受け、大きな支援を受けるようになる。これらをきっかけに現在では文科省が「めざせスペシャリスト」という、将来のスペシャリストを育てる支援事業が行われている。



講演をする岸川氏



岸川氏の話聞く受講生

# フューチャーコラージュ

高知大学の須藤よりフューチャーコラージュについての説明後、各自作業に取り組んだ。フューチャーコラージュとは雑誌の紙面を模造紙に切り貼りし、思い描く未来の自分の姿を表現するワークである。今回は「プロジェクトは実現したときの自分の姿」を創造し、表現していった。悩みながら一人ひとり、黙々と作業をしながらも、近くにいる人とのりやハサミの貸し借りをしたり、作品の情報交換したり、和気あいあいとした雰囲気ワークが進められた。作品完成後はFacebookのグループに作品を投稿し、「作品について感じたこと」をお互いの投稿にコメントしていった。他人からのフィードバックにより、自分の作品に新たな発見をすることが出来た。



ワークについての説明



作品を制作する様子



切った素材を貼り付ける様子



素材を選んでいる様子



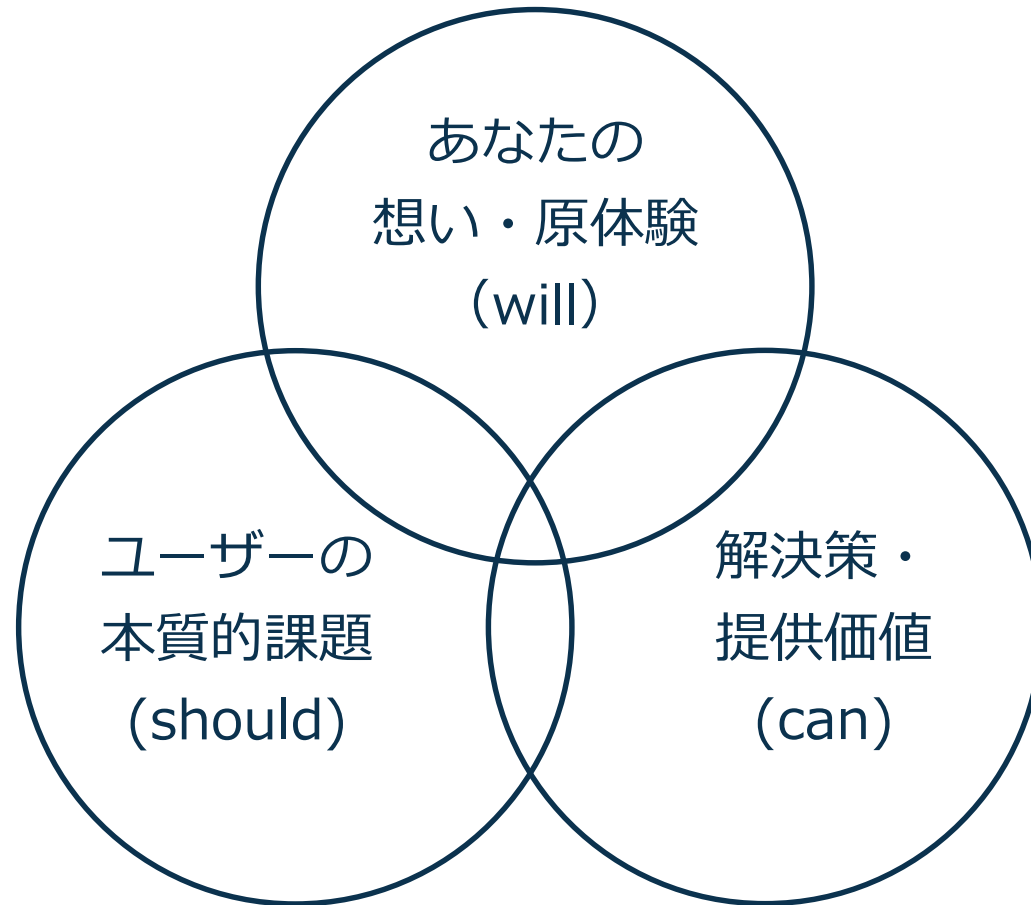
完成した作品（例）



作品の印象をFBにてコメントする様子

# ポイント：徹底して自分のwillに向き合う

---





## 問い合わせ先

---

四万十町役場 人材育成推進センター

担当：横山 光一・吉村 愛

〒786-0008 高知県高岡郡四万十町榊山町3番7号

TEL 088-022-3163 FAX 088-022-3123

E-mail [103060@town.shimanto.lg.jp](mailto:103060@town.shimanto.lg.jp)

高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室(須藤順研究室)

担当：准教授 須藤 順

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1総合研究棟1階

TEL 088-788-8077 FAX 088-888-8043

E-mail [j.suto@kochi-u.ac.jp](mailto:j.suto@kochi-u.ac.jp)

Web <http://www.communitydesign-kochi.jp/>

※本講座に関する問い合わせは上記までお願いいたします。

※本資料の無断での配布、外部組織や個人への配布・閲覧、及び二次使用は、固く禁止させていただきます。